

松江市史講座 「宍道湖・中海と魚たち」

ホシザキグリーン財団 越川敏樹

1、魚にとっての宍道湖と中海

＜春＞ 日本海から大量な魚の溯上

＜冬前＞ 順次、海へ戻る魚

汽水の宍道湖・中海に進入するのは

- ・豊富な餌
- ・穏やかな水辺環境
- ・少ない敵 e t c .

⇔

変化への対応

2、汽水を利用する魚たち

汽水の宍道湖と中海を長期間棲息の場とする海の魚 130種程度

＜タイプ分け＞

A：春に日本海から進入し、夏と秋を過ごし、冬前に戻るタイプ

スズキ、コノシロ、ヒイラギ、ボラ・・・・・・・・

B：汽水域を主な棲息場所としているタイプ

ワカサギ、シラウオ、マハゼ、チチブ・・・・・・・・

C：汽水域と川を行き来するタイプ

フナ、ウグイ、ヨシノボリ、シンジコハゼ・・・・

Aのタイプが圧倒的に多い。 約7割

3、減少する魚 特に、減少の激しい魚 10種

ワカサギ、クルマサヨリ、イトヨ、セスジボラ、ヨウジウオ
ギンボ、ビリンゴ、シンジコハゼ、マハゼ、クロソイ

Bのタイプが大半を占める。 8/10

減少の原因：棲息し難い環境

4 湖底環境の悪さ

夏場の貧酸素水塊の広がり と 餌生物の減少

食物連鎖から湖底環境を考える

5、湖底に生きる生き物たちが創る環境

二枚貝、ゴカイ類、ミミズ類、エビ類、カニ類・・・・・・・・

海藻、海草・・・・・・・・

人間・・・

生物多様性 ⇔ 環境づくり